

男性の育児休業取得に関する アンケート調査

Keywords 男性の育児休業 産後パパ育休 女性活躍促進

職能情報部

【はじめに】

1991年育児休業等に関する法律が成立し約30年が経過した。令和3年時点において男性の育児休業取得率は**13.97%**と女性の取得率（**85.1%**）と比較するとかなり低い水準にある（令和3年度雇用均等基本調査：厚生労働省より）。

男性の育児休業取得が推進されている背景には、男性の育児・家事へ参加を促進し、女性が育児を理由に就業をできなくなることを防ぎ、女性の社会参加を促進させることがある。

【調査目的】

- ・大分県理学療法士協会（以下、県士会）会員において育児休業等の認知度および取得状況を把握する。
- ・育児休業等の取得経験者から育児休業等の取得期間や取得時の悩みなどについて情報収集する。
- ・これから妊娠・出産・育児などのライフイベントを控えている会員が安心してキャリアを積んでいけるように情報提供するための資料として活用する。

【方法】

対象：県士会全会員（1771名 令和5年10月17日現在）

期間：令和5年6月1日～7月31日

アナウンス方法：①県士会ホームページおよびメルマガへの掲載

②県士会主催研修会等での案内

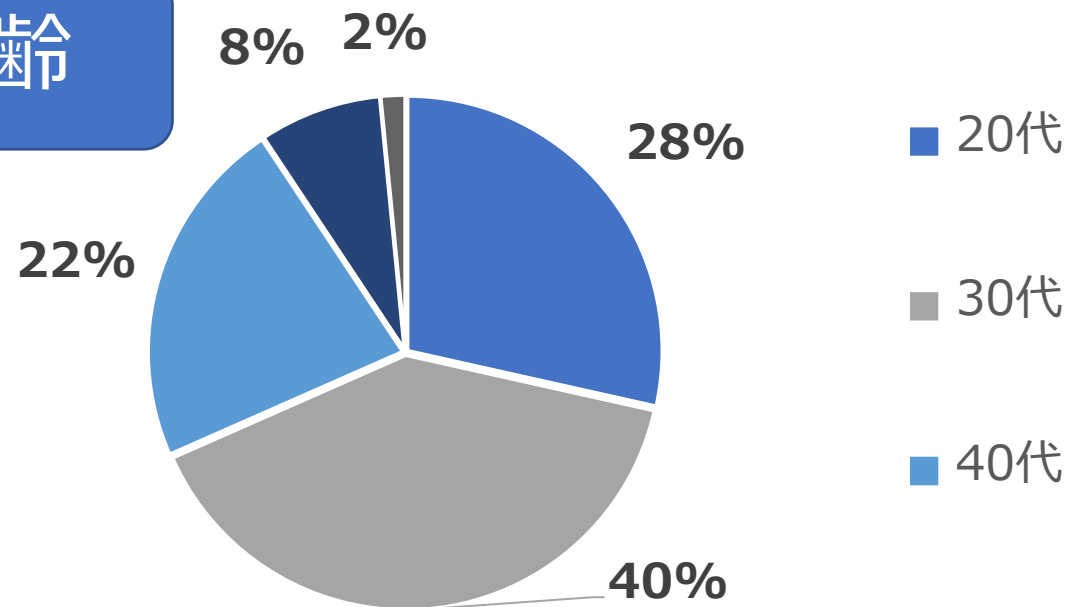
③管理者ネットワークを通じて各施設へのアナウンス

回答方法：Webアンケート機能を用い、選択制

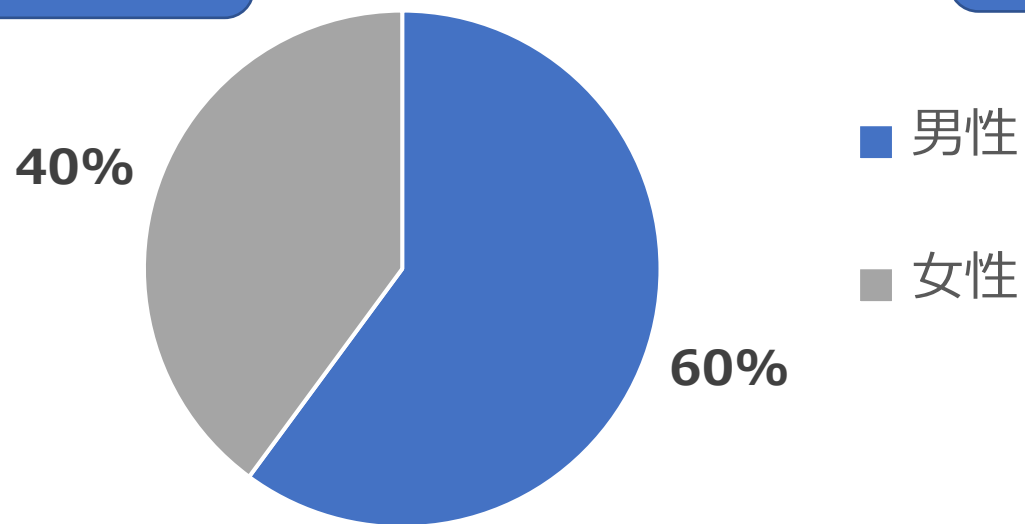
回答数 193件

回答率 10.9%

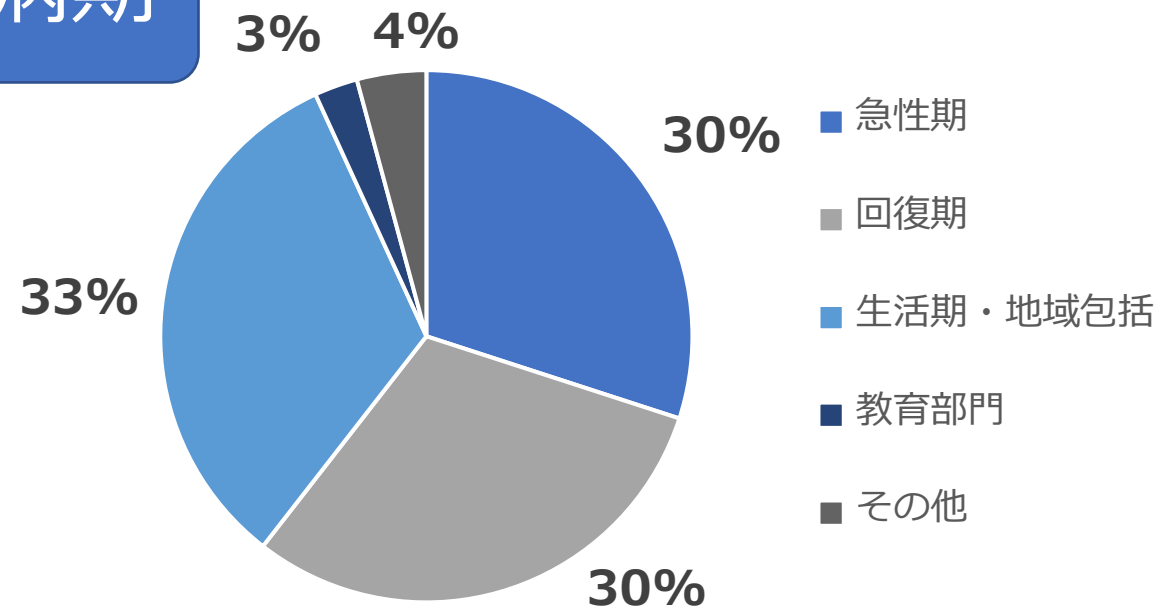
年齢



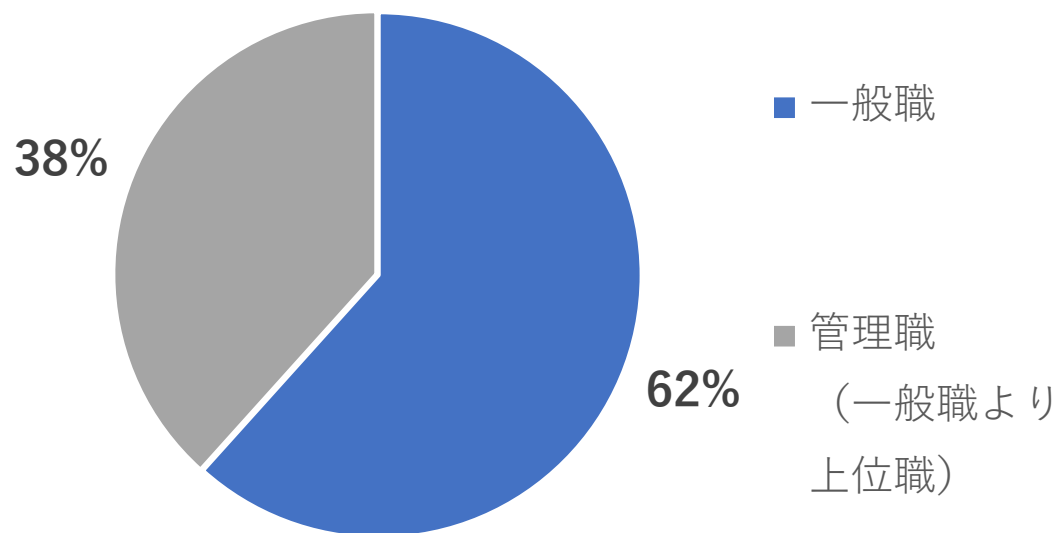
性別



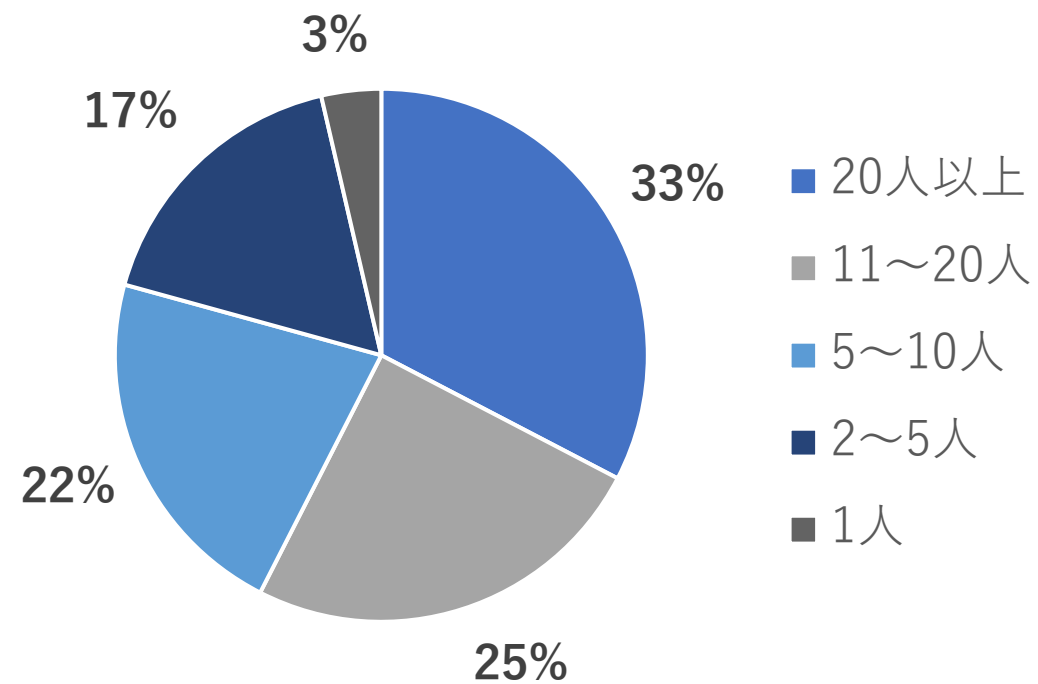
所属病期



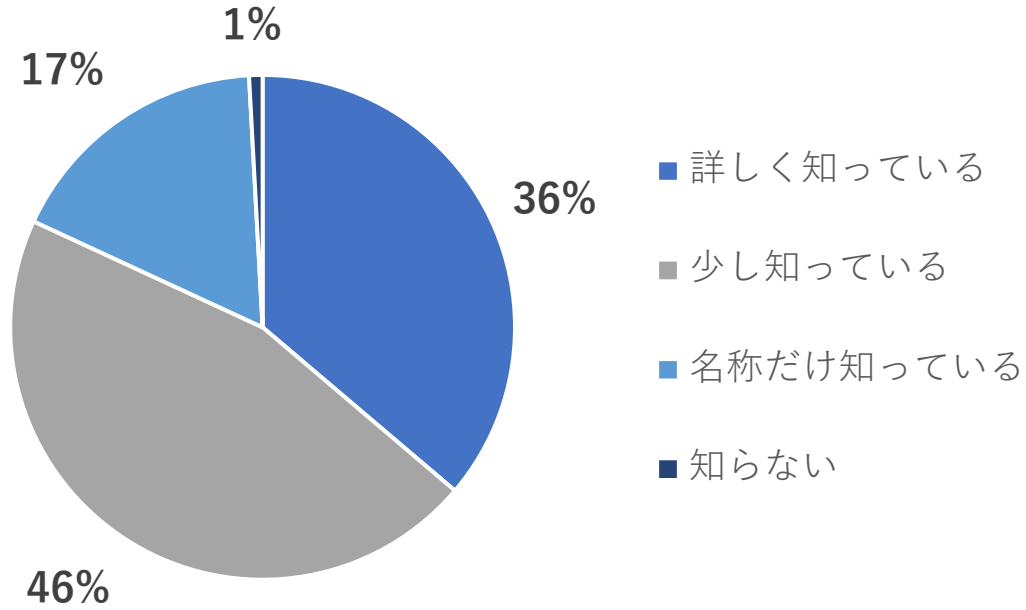
役職



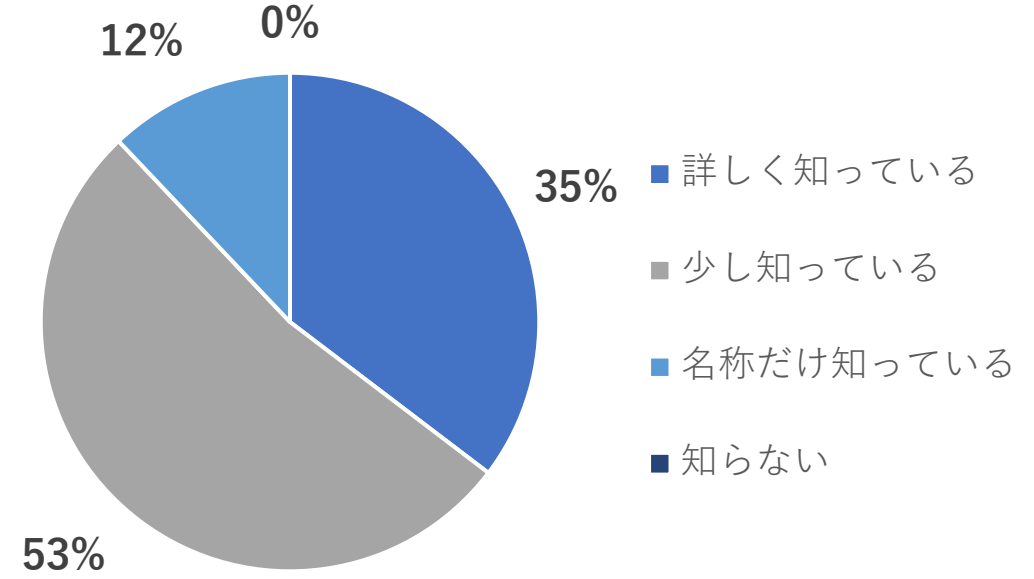
勤務している部署のPT数



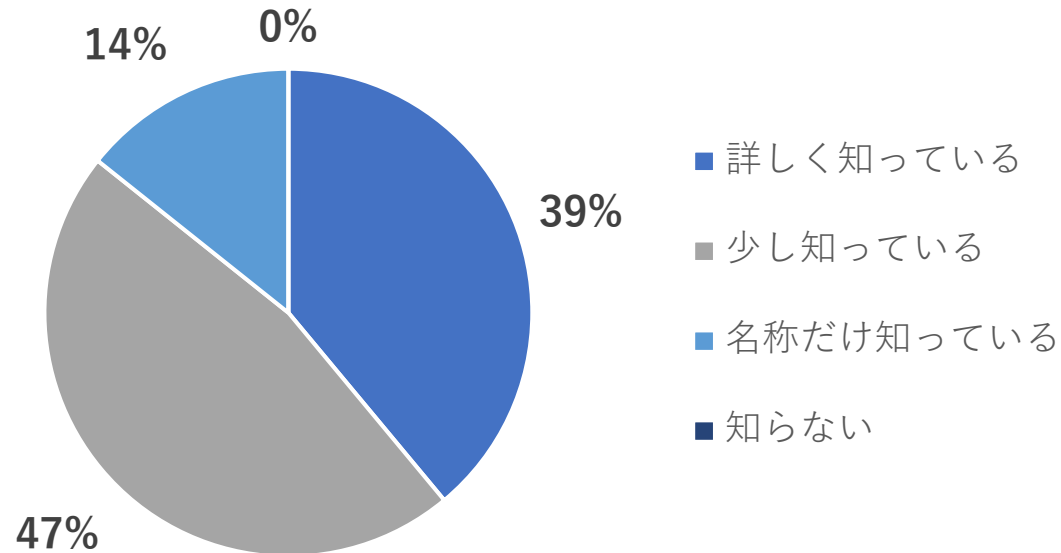
産前・産後休業をご存知ですか（男性）



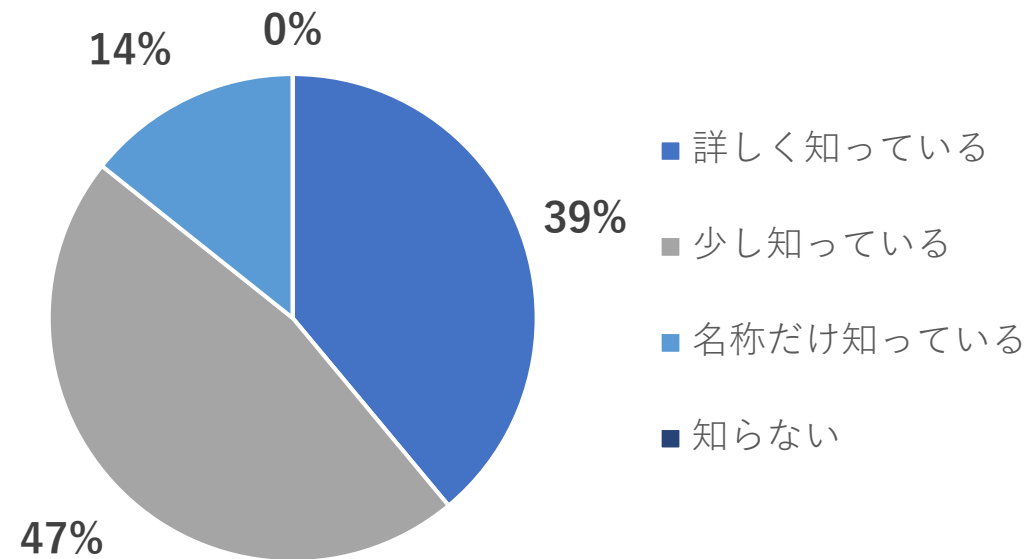
育児休業をご存知ですか（男性）



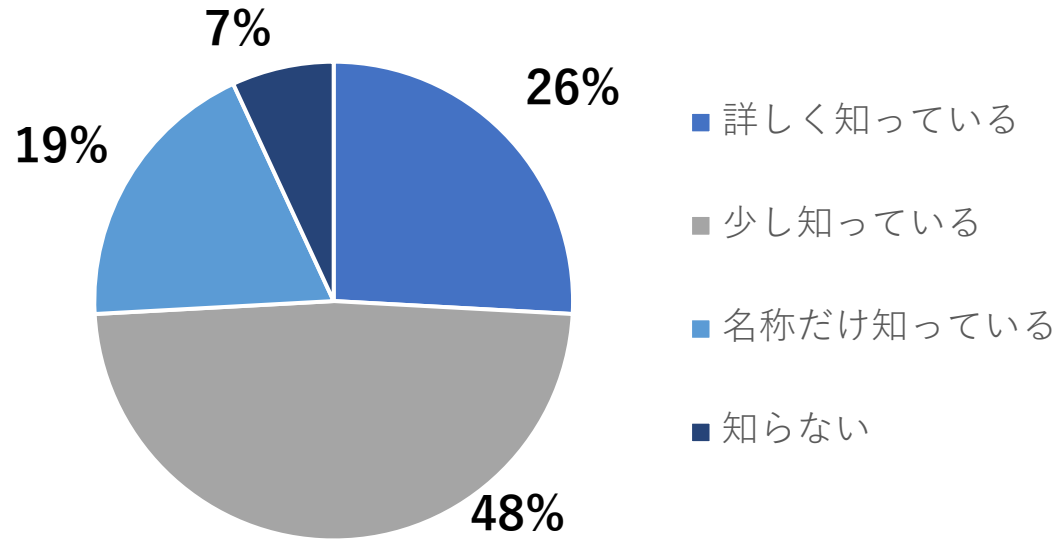
産前・産後休業をご存知ですか（女性）



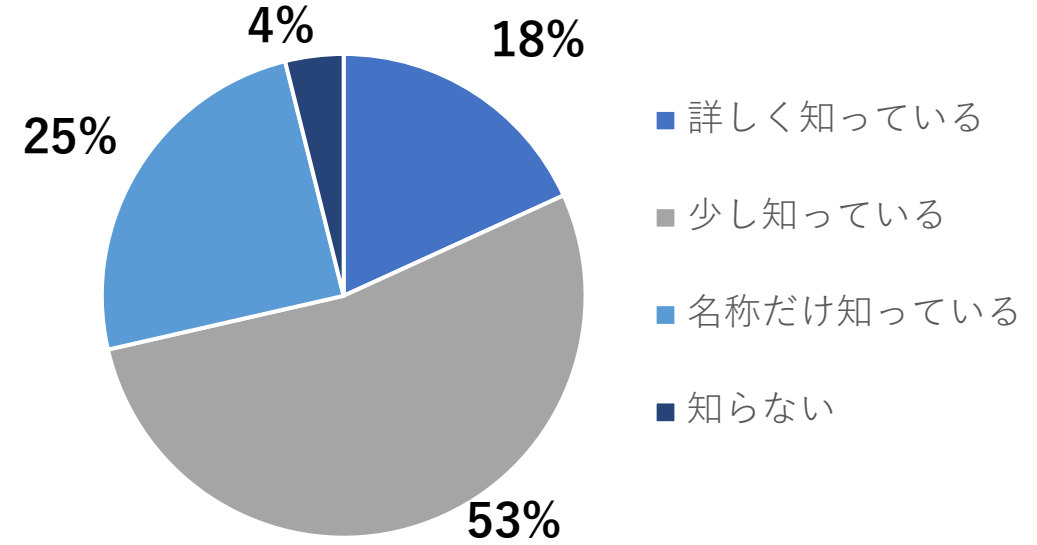
育児休業をご存知ですか（女性）



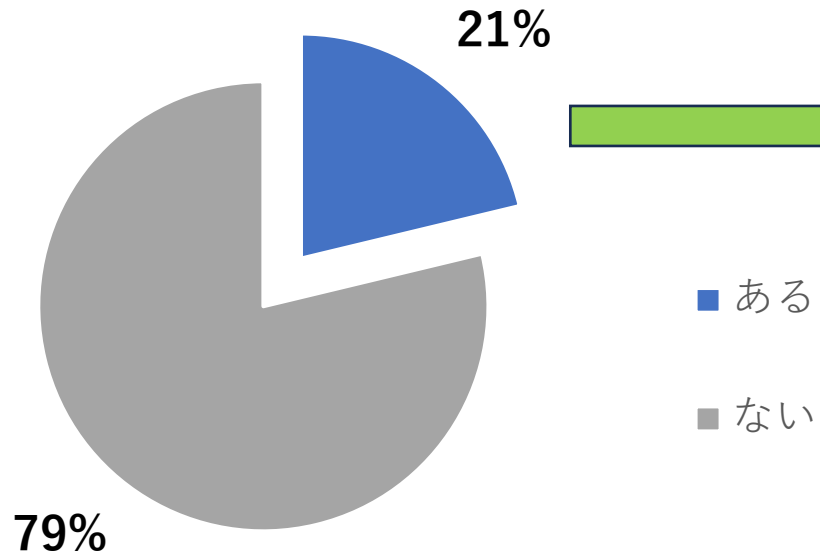
産後パパ育休（出生時育児休業）を ご存知ですか（男性）



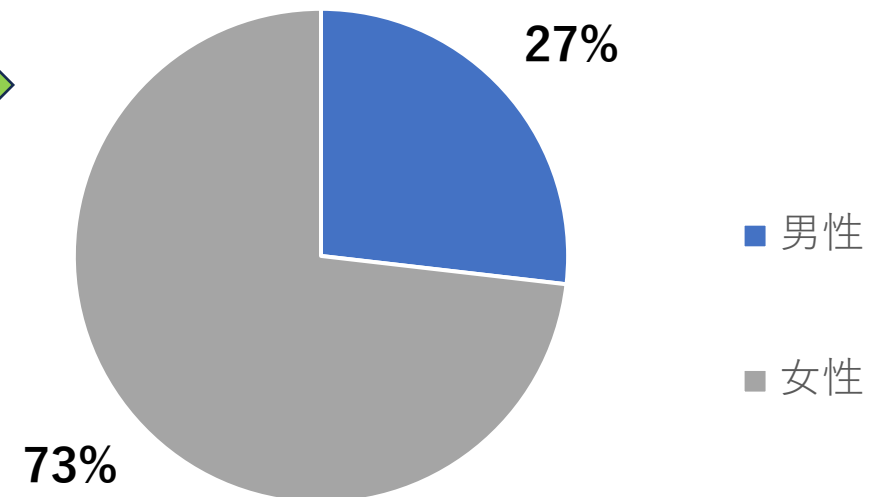
産後パパ育休（出生時育児休業）を ご存知ですか（女性）



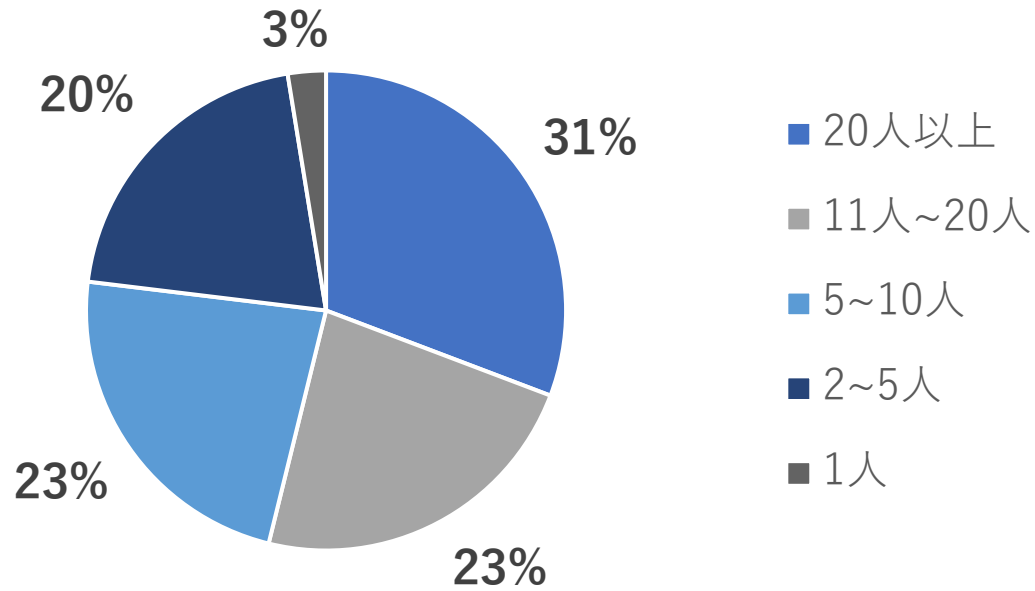
育児休業を取得したことがありますか



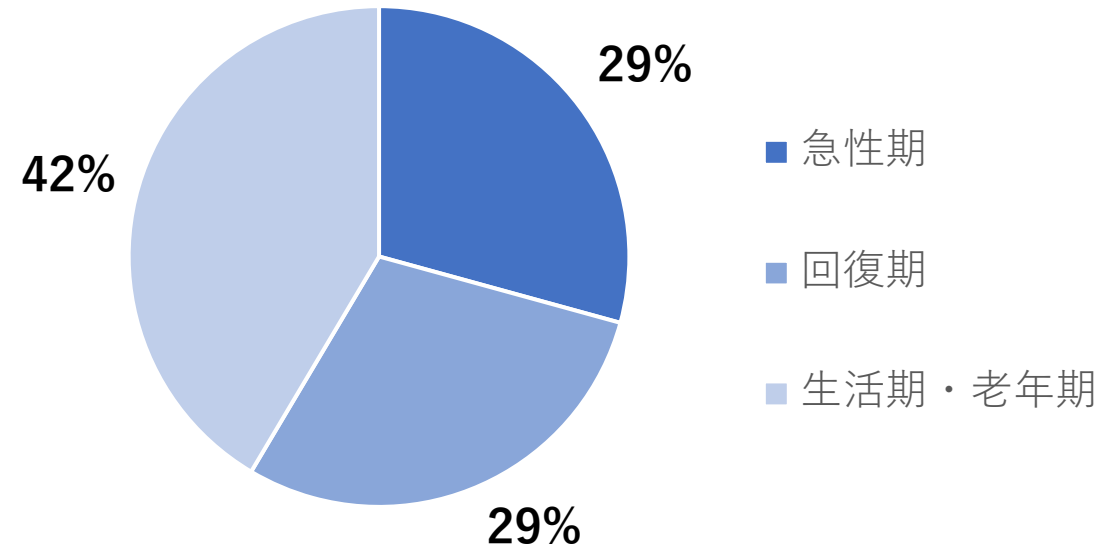
育児休業を取得者の男女割合



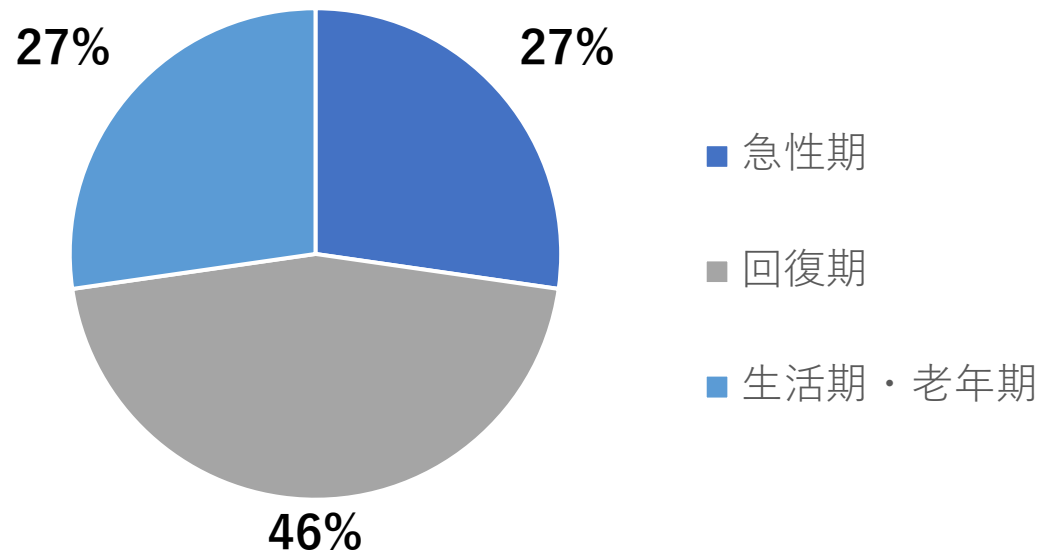
勤務者数別の育休取得者数



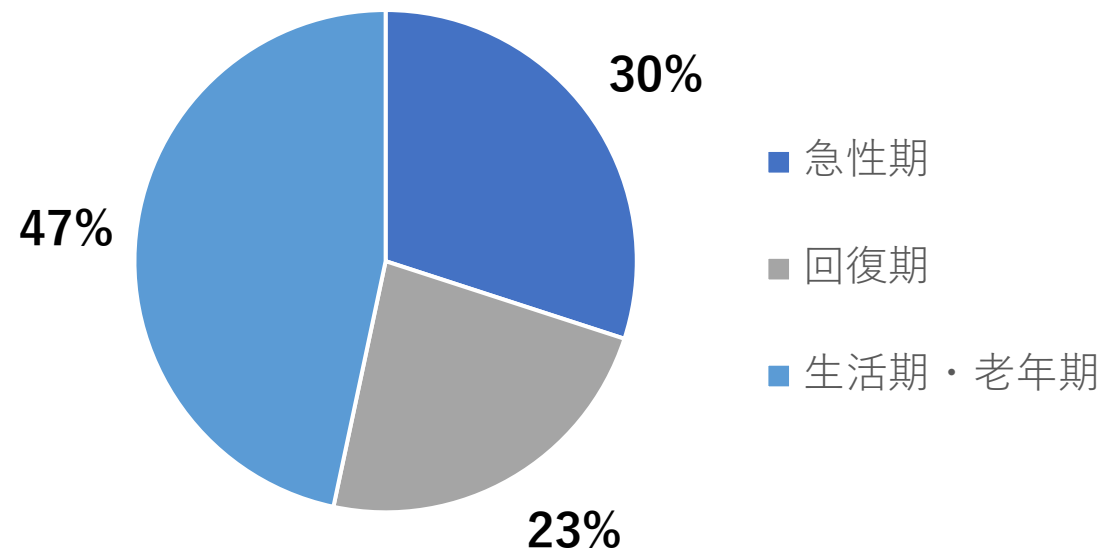
病期別の育休取得者数（全体）



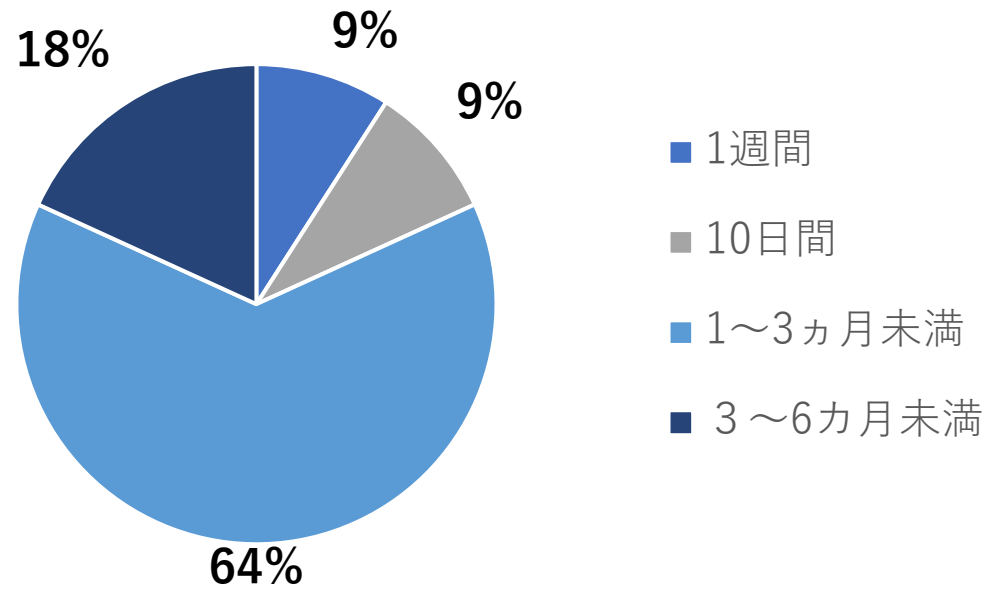
病期別の育休取得者数（男性）



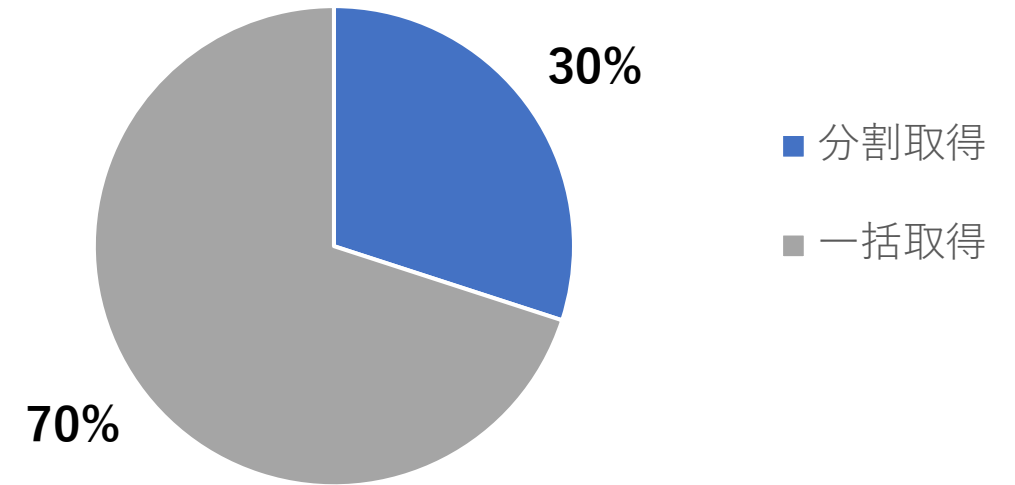
病期別の育休取得者数（女性）



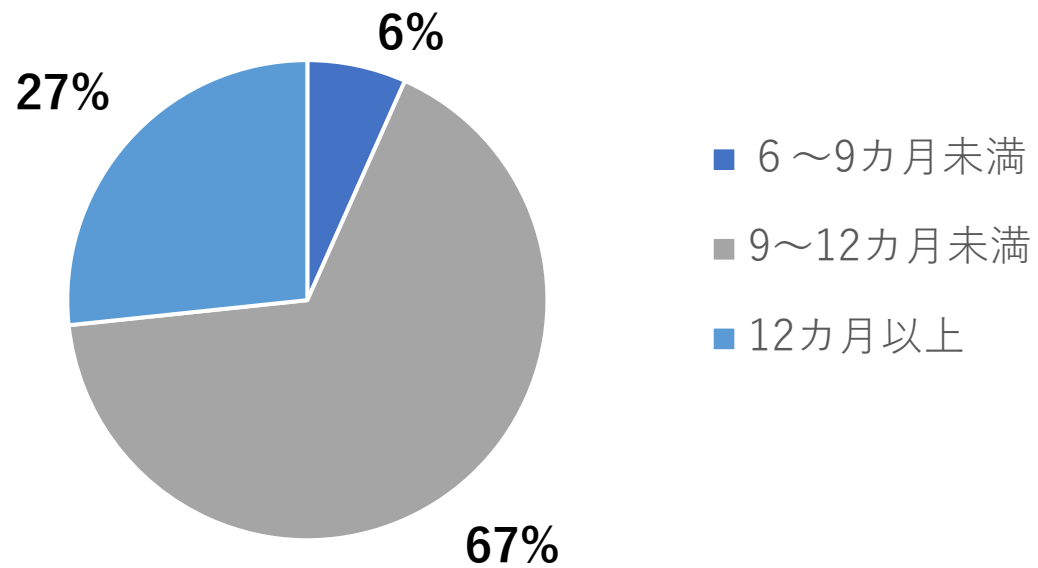
育児休業取得期間（男性）



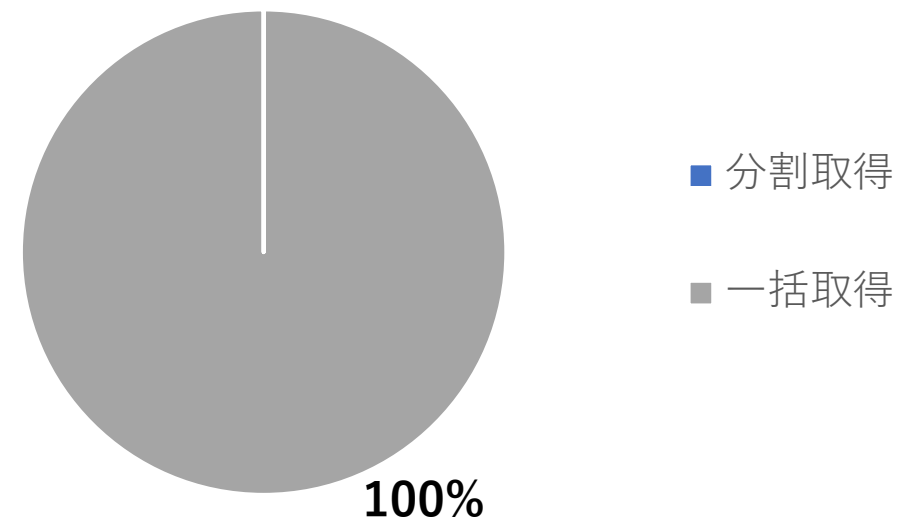
育児休業取得方法（男性）



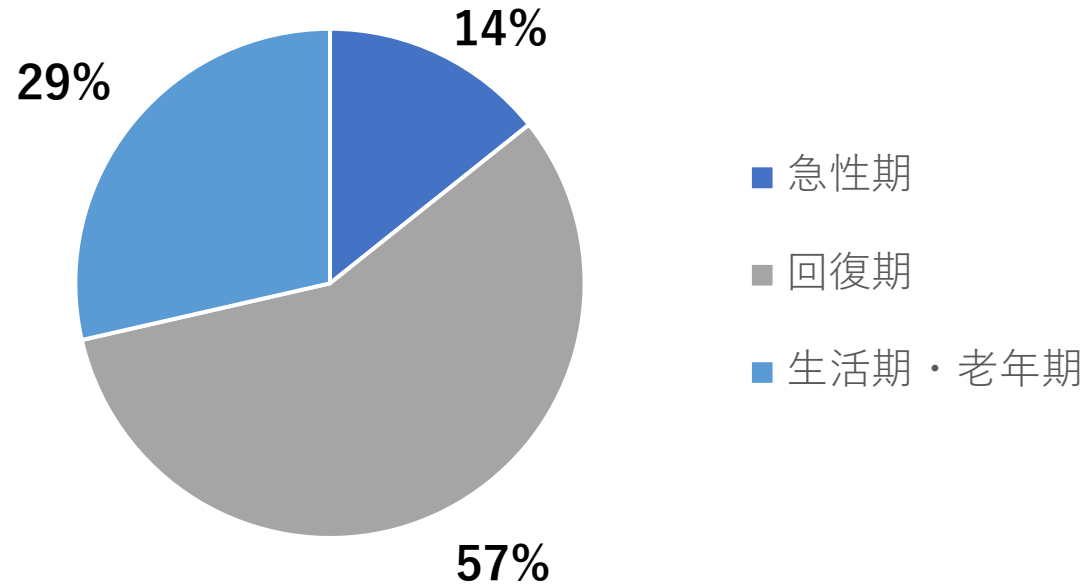
育児休業取得期間（女性）



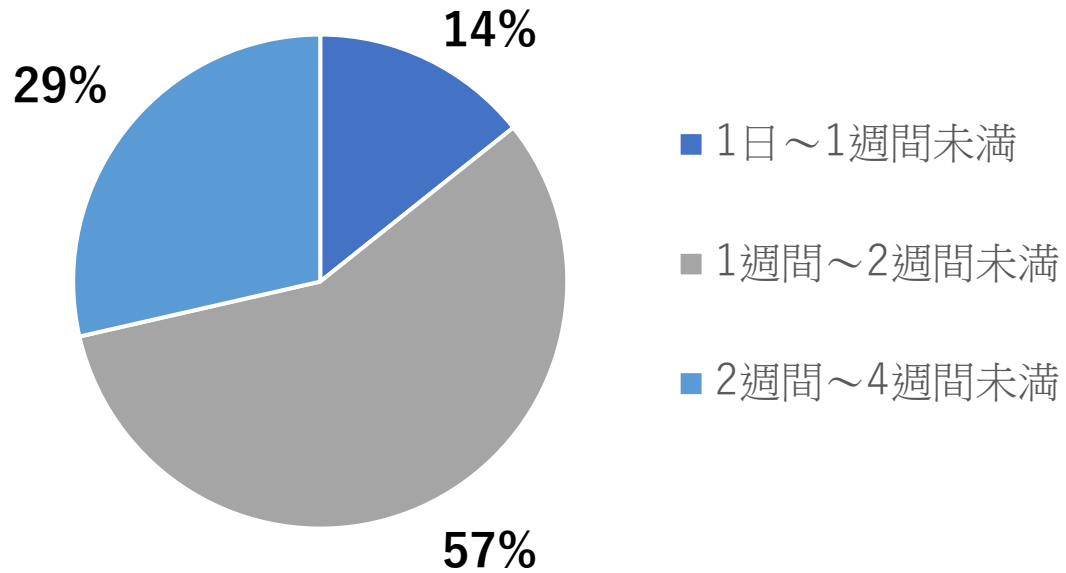
育児休業取得方法（女性）



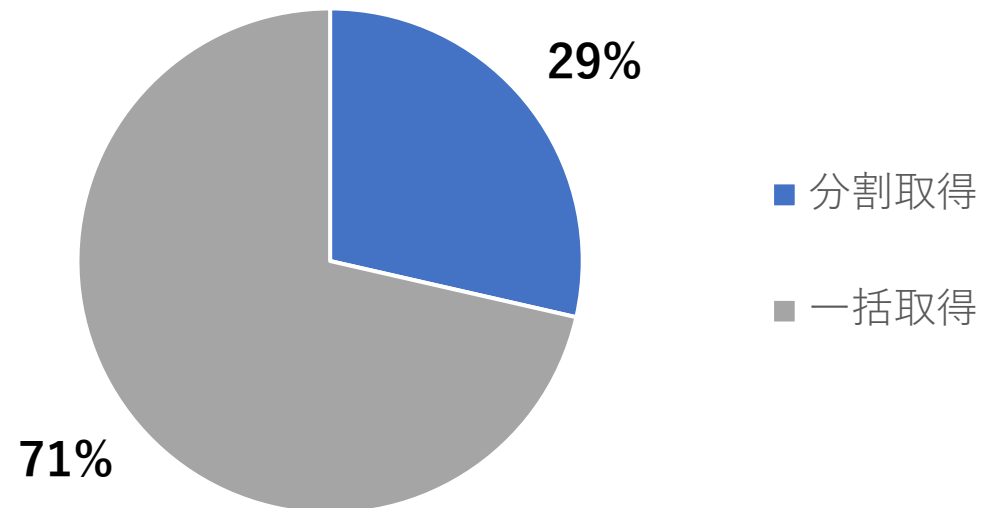
病期別の産後パパ育休取得者数



産後パパ育休取得期間



産後パパ育休取得方法



育児休業を分割で取得した理由（3名の男性より回答）

- ・ 状況に応じて必要時取得したから
- ・ 成長時期に合わせ、妻の復帰前準備も兼ねて
- ・ 出産時や帰省時などに分けたため

育児休業取得時の悩み（育児休業を取得した27名より回答）

職場との人間関係

- ・結果的に取得できたが、上司の理解はなく、心無い言葉を言われた。
- ・余裕のない部署に配慮する必要があった。
- ・取得中の他スタッフへの負担と申し訳なさ。
- ・復帰後の育児と仕事の両立への漠然とした不安。ほかのスタッフは残業をしたり、勤務後に残って勉強等をしていても、自分だけ先に帰ることへの罪悪感や劣等感があった。
- ・育児休業を取得出来る日数を希望すると、「そんなに休むの？」と言われ早めに復帰した。
- ・長い日数は取得しにくい。
- ・上司や同僚の業務負担の増加や育児休業を理解してもらえないか不安。
- ・男性ばかりの職場で長期休む事にあまり理解がなく、とりづらかった。
- ・申し送り（相手への負担）に気がつかった。送りがバタバタしてしまった。

休業中・休業後のブランクによるもの

- ・今までの業務に復帰できるか、また学習面や技術面での不安。
- ・長期不在になるので役職をどうするか。
- ・管理業務の振り分けをどのスタッフに任せるか。
- ・長く臨床を離れるためスキルの復帰できるのか 育児と仕事の両立が出来るのか。
- ・復帰したときの働き方がどうなるか。

育児休業取得時の悩み（育児休業を取得した27名より回答）（つづき）

家庭

- ・月収が減ることへの不安、生活費の負担。
- ・復帰後に育児と両立できるかわからない。
- ・休みの間や復帰後迷惑をかけてしまいそうだという事。
- ・復帰の時期。

制度上のもの

- ・契約社員時に育休として休んだため、休んでいる間の手当がなく少し困った。
- ・職場からの取得時期の提案があった。

産後パパ育休取得時の悩み（産後パパ育休を取得した6名より回答）

- ・結果的に取得できたが、上司の理解はなく、心無い言葉を言われた。
- ・男性で育休を取得するのは気が引ける。
- ・「パパ育休ってなにをするの？」と同僚から言われた。
- ・日数が短い。

産後パパ育休を分割で取得した理由（3名より回答）

- ・状況に応じて必要時に取得したから。
- ・妻の里帰りのタイミングで4週間と、復職のタイミングで2週間取得した。
- ・出産時や帰省時に分けたため。

育児休業取得経験のある男性にお伺いします。これから育児休業取得を考えている方に対してのアドバイス（時期、期間、サポート内容など）がありましたら教えてください。

12 件の回答

事前準備

- ・ 職場と掛け合うために、自ら調べ、知識を付けておくこと。
- ・ 職場の就業規則を把握すること。
（職場内の取得状況など会社が明確提示、開示にしているかなど）
- ・ 制度を知らない方が多く、啓蒙活動が必要。

職場環境

- ・ 管理者(職場)など周囲の理解があるか知っておくこと。
- ・ 個人ではなく、取得しやすい職場環境作りが大切だと思う。
- ・ 取得に際して、育休手当や社会保険料控除などの説明があれば助かる。

経済面

- ・ 国からの助成金があるため経済的には全く損をしない。

育児休業取得経験のある男性にお伺いします。これから育児休業取得を考えている方に対してのアドバイス（時期、期間、サポート内容など）がありましたら教えてください。（つづき）

12 件の回答

取得期間

- ・分割がいいと思う。
- ・上の子がいて里帰りが出来ない場合、退院後から一か月取得できれば妻の負担は軽減し体力が回復しやすい。

心理面

- ・子供が小さい時期は一瞬なので、後悔しないよう遠慮せず取った方がいいと思う。
- ・色々思うことはあると思うが、まずは奥さんと赤ちゃんのサポートが出来れば大丈夫だと思う。

育児休業取得経験のある女性にお伺いします。男性の育児休業に求めること（時期、期間、サポート内容など）がありましたら教えてください。23件の回答

精神的・身体的な面

- ・生まれてすぐの子どものお世話。
- ・兄弟児のお世話や日々の家事等。
特に出産直後3カ月は、赤ちゃんもママも慣れない生活でとても疲れやすい。
- ・出産1か月前は精神的にも不安定になったり、身体の疲労などがあった。
身体的にも経済的にも負担の少ない環境であれば2人目の妊娠なども現実的に考えることができる。
- ・一括取得よりも分割取得で疲労回復やリフレッシュする時間を作って欲しい。
- ・夜泣きがひどい時などはサポートが欲しいので分割で育休が取れるような環境だとよい。
- ・最低でも産後3ヶ月程度の時期が必要。夜間のミルクや家事をしてほしい。
- ・役場への申請、買い物、子どもと留守番など。
- ・子どもの入院など付き添いのため長期休みが必要な時に負担を分けたい。
- ・産前の準備、産後の新生児期のサポート 慢性的な睡眠不足への協力。

周囲のサポート

- ・実家の支援が得られないときは短期間でも取得してもらえると助かる。

育児休業取得経験のある女性にお伺いします。男性の育児休業に求めること（時期、期間、サポート内容など）がありましたら教えてください。23件の回答（つづき）

周囲の理解や認識

- ・家でダラダラしていると思われていないか。
- ・育児を「手伝う」という感覚で、それが行動や言葉に出ている。
- ・男性自身が育児休業を取りにくい雰囲気になっているのではないか。
子どものために夫が休むのは妻が仕事を休めないとき、
男性が休業して何をするのか、
など男性自身に夫が休むという考え方が定着していないことや、想像ができないことがあるのではないか。
- ・まずは、短期間で定期的に取得、「サポート」ではなく目的をはっきり周囲に伝える。
- ・職場で常日頃から家事・育児の話をする等、取得には周囲の男性の理解を地道に得ていくことの方が大事。
- ・育休が「休暇」ではなく子育てをするための「休業」という事。
- ・男性だから関係なく、短期間ではなく長めに休みをとって欲しい。
- ・出産後、身体、精神共に変化が大きい女性だけが育児をする習慣が未だ強い。
- ・出産にあたり身体的に変化のない男性の方が積極的に関わることで、家族関係などにいい影響がでるのでは。

育児休業取得経験のある女性にお伺いします。男性の育児休業に求めること（時期、期間、サポート内容など）がありましたら教えてください。23件の回答（つづき）

取得時期・期間

- ・二人目となると、第一子のお世話など、男性の育児休業の必要度があがる気がする。
- ・帝王切開だと入院期間が長いので産後すぐの休み（2週間程度）を取ってほしい。
- ・子どもとの生活に慣れるまで、なるべく産後直後。
- ・産院入院中、自分の育児休暇終了直後。
- ・お金が許す限り長くにとって欲しい。
- ・産後すぐ1ヶ月程度

その他（役割・経済面）

- ・夫の育児休暇もただ休むだけになるなら取得を希望しない。
- ・育休手当が高くなるので給料を上げてほしい。その後の時短勤務になった時の収入源の方が問題。
- ・産後1年、サポート内容は授乳以外全て女性と同じ。

【考察】

産前・産後休業の認知度
男性99% 女性100%

産後パパ育休の認知度
男性93% 女性96%

認知度は高い結果であった

育児休業を取得したと回答された方のうち**男性は27%**

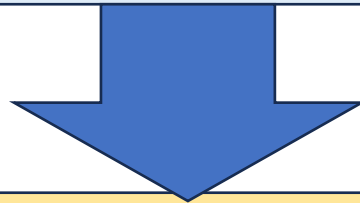
【産後パパ育休取得期間】 1週間～2週間 57%

【男性の育児休業取得期間】 1ヶ月～3ヶ月 64%

育児休業を取得した女性の意見として

- ◎産後3ヶ月までは身体的、精神的にサポートを必要としている
 - ◎主に子どもの世話、家事、買い物、手続き時の子守りをしてほしい
 - ◎疲労回復、リフレッシュしたい
- といった回答が多く、男性の育児休業取得期間の結果と重なっている。

- ・長期間休む事による収入減、上司や同僚への業務負担増加の心配やブランクによるスキル低下、管理職業務の引き継ぎ、復帰後の育児との両立に対する不安があることがわかった。
- ・職場の理解が得られなかったり、後ろめたい気持ちになる。
- ・育児休業に対する認知は高いものの、男性の育児休業取得には周囲の理解や環境作りを求める声が多かった。



- ・育児休業の取得にあたっては、家庭内と職場内双方でコミュニケーションをとり、お互いの事情や状況に応じた対応が求められると考える。
- ・女性の社会参加や活躍促進には、職場全体が育児に対する理解を深め、男性の育児参加や復帰直前の育児休業取得による復職支援ができることなどが必要ではないか。
- ・育児休業に対する職場側の悩み、課題などにも目を向ける必要があるのではないか。

【まとめ】

県士会の会員においても男女比に差は少なく、20代～30代の年齢層の会員が半数を占めており、妊娠・出産・育児のライフステージにある会員も少なくない。

妊娠・出産・育児期にある協会員が継続して安心して就労するためにも育児休業等の取得についての情報収集および発信を協会として行う必要があると考える。